

平成30年度第2回宮代町立図書館協議会議事録

■日時：平成30年12月13日（木）16時00分～18時05分

■場所：宮代町立図書館研修室

■出席者

- ・委員：菊地正明、国川恵子、遠藤和代、矢澤和江、鈴木清三、葛西博行、宮野紀子、佐藤将行（欠席：八重樫元、鎌田裕子） ※順不同、敬称略
- ・指定管理者（株図書館流通センター）：清水図書館長、永堀一般チーフ
- ・事務局（宮代町教育委員会）：飯山生涯学習室長、田中主査、小林主任

■次 第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 報告事項
(1) 平成30年度上期の図書館事業報告について
- 4 その他
- 5 閉会

■会議概要（1～2省略）

3 報告事項

(1) 平成30年度上期の図書館事業報告について

①利用統計・・・図書館長から説明（資料1別紙参照）

《主な質疑応答》

委 員：行事参加者数のおはなし会、こども映画会で数字がカッコ書きになっているのは何か。

図書館：前回の会議で、集計の記載方法について指摘があったもの。各ボランティア団体が夏休みに行った行事の参加者数は、季節行事に記載してあるため、内訳をカッコ書きにしてある。

委 員：白岡市の図書館を宮代町や杉戸町の人がどのくらい利用しているのかは分かるのか。

図書館：こちらでは分からない。

委 員：予約数について、一人で何冊も予約を入れる人もいるので、予約冊数のほかに、予約者数を記載して欲しい。また、宮代の図書館で所蔵していない本を予約して借りた人がどのくらいいるのか。

図書館：他館資料の予約と貸出データについては、即答できないので、確認をして後日報告させていただきます。

委 員：リサイクルで雑誌等は町民に頒布会を行っているが、本は長時間保管しているのか。

図書館：利用価値がなくなった資料に関しては、随時廃棄している。古いガイドブックや医学書、パソコン関係等は、リサイクルで出している。

委 員：ハードカバー本が新書として出版された場合、両方所蔵するのか。

図書館：ハードカバーの状態が悪いものを、文庫に買い替えるという作業は行っている。

委 員：入館者の年齢別データは分からないのか。

図書館：出入口のゲートを通るとカウントするため、年齢別は分からないが、感覚的には、高齢者と子育て世代のお母さん方が多く、真ん中の世代やヤングアダルトの中高校生は貸出が少ない傾向にある。

委 員：勤労者である30代後半から60代までが少ない。

委員：杉戸町の図書館の窓側のスペースは、高校生等で勉強をする人が20～30人くらいいて込み合っているが、宮代町ではどのような状況か。

図書館：それほど込み合っておらず、他の利用者とのバランスがとれている状況にあると認識している。

委員：勉強スペースとして利用する人をもっと呼び込んだほうが良いのではないか。

委員：利用者が多ければ必ずしも良いというものではない。多すぎると時間の貸出制とする必要が生じることや、図書館の本を資料として使用することが本来の趣旨だとすれば、持参した参考書で長時間勉強をする人で混雑すると他の利用者から苦情が出てくることも考えられる。

図書館：さいたま市では、自分の参考書の持ち込み学習と図書館資料を使つての調べものに関してそれぞれスペースを分けているところもある。この問題に関しては、過去から高校生等が勉強をしていることにより、一般の人の利用に支障が生じるため何か対策を、という議論があったようだが、現在は、世の中が変化していき、滞在型という動きが主になってきているようだ。

②主たる事業・・・図書館長から説明（資料1参照）

《主な質疑応答》

委員：ブックスタートの研修を行ったが、新しくボランティアとして参加してくれるような方は何人くらい確保できたのか。

委員：自分も今年から参加しているが、新しく声掛けをしたのは4人。そのうち、研修に参加したのは3人。

委員：駐車場にラインが引かれたのは、分かりやすくなって良かった。

委員：みやしろ大学でイベント等の案内をしたとのことだが、評判や反応等はどうかであったか。

図書館：11月20日のみやしろ大学で時間を頂戴し、シニア世代が興味のある11月～13月の行事を案内させていただいたが、翌日に開催したバリアフリー映画会には過去最多となる88名の参加があり、少なからずPRの成果があったのでは、と感じている。今週末のライブラリーシアターやナクソス利用の音楽鑑賞会等の参加者も増えるのかと期待をしている。

図書館：また、シニア向け資料のコーナーを新たに設置したほか、新規事業として検討している、家庭で眠っている昔懐かしいレコードを持ち寄って鑑賞する「持ち寄りレコード鑑賞会」には、当協議会の委員にも企画運営にご協力いただきたいと思っている。

委員：以前から提案していることだが、東武動物公園駅の広報みやしろのラックは、月の半ば過ぎには広報もなくなっているのでは、図書館だより等のチラシを入れてもいいのではないか。

事務局：管理をしている広報担当から、通常、毎月第2週目頃までは広報を補充するが、それ以降であれば、空いている時は使用してもいいと正式に了解を得たので、今後活用させていただく予定である。また、指定管理者からの提案で、町内循環バスの中に図書館のイベント案内等を掲示させてもらうことについても、準備を進めているところである。

委員：進修館のブックポストの本があふれている状況を2度見かけた。これは、進修館に返却される本が増えているからなのか、それとも子育てひろば前の分が2か所に分散された程度なのか。

- 図書館：子育てひろばと進修館、ぐるりのブックポストには、ほぼ毎日取りに行っているが、返却本の数はまちまちで、多い日もあれば少ない日もある。多い時は30～50冊で、0冊の時もある。傾向的に少ないのは進修館で、8月から始めて4か月経過したが、まだ周知・定着していないのではないかと思う。
- 図書館：本があふれるというご指摘については、ポストの構造上、本が引っ掛かってしまう所があるので、来年1/8～1/15まで一時撤去し、改修してもらう予定である。貼り紙、図書館のHP、貸出カウンターでもお知らせを配布し、周知を図っている。また、進修館のスタッフには、本があふれていたら、入れてもらうようお願いをしている。
- 委員：ブックポストは、進修館のどこに置いてあるのか。分かりにくい。
- 図書館：ボランティア室前に置いてある。今回の修理をする案内によって、ブックポストがあると周知されるのではないかと思っている。
- 委員：雑誌のスポンサー状況はどうなっているのか。
- 図書館：今、4社からいただいている。図書館HPにも案内は載せているが、新着雑誌の表紙・裏表紙にスポンサーの企業名を入れている。6冊選んでいただき、年間3万円である。
- 委員：増やす予定はあるのか。
- 図書館：現在1社と交渉中である。
- 委員：展示ホールの食卓用テーブルについて、本を読みながらは使用できないと書いてあるが、実際本を読みながら食べている人がいた。職員に聞いてもらったところ、自分で持ってきた本だ、ということだった。外から見ると、図書館の本なのか自分の本なのか分からない。まだ、始まったばかりなので早目に対策を取らないと図書館の本を汚されかねないのではないか。
- 図書館：食卓用テーブルについては、利用者アンケートでの要望を受けて設置したもので、展示ホールで催し物がない時かつ机・椅子に余裕がある時に食卓用として4か所設置している。ただし、長時間の利用、本を読みながらの食事は不可としている。
- 委員：図書館は食事をするスペースが限られているので、とても良い取組であると思っている。本については、自分のものであると一切読むのは不可にしてしまった方が良いと思う。自分の本のみOKにすると、先ほどのような課題もあり、また長時間は不可としても勉強もできてしまう。食事だけとしたほうが利用の回転も速くなり良いと思う。
- 委員：レーザーディスク機器を修理したとあるが、メーカーの対応や部品の在庫はどのような状況になっているのか。
- 図書館：非常に厳しい状況になっており、レーザーディスクの存続は課題の一つになっている。
- 委員：本と同じように使わなくなった機器を寄付してもらうのも考えてみてはどうか。
- 委員：シニア向けの講座も重要であるが、子育て世代や読み聞かせボランティアを行っている世代向けの講座を行ってほしい。招いてほしい先生は大勢いるが、そのような先生は結構な謝礼がかかる。講師予算は町との契約の枠組みの中でどのようにしているのか。
- 図書館：一定の予算枠の中で実施している。
- 委員：予算の枠を超えた部分を参加者からの参加費で賄うことはできないのか。
- 図書館：図書館で有料の講座を行うことは基本的にはできない。
- 委員：みやしろ大学で配布したシニア向けイベントのチラシは見やすく良いと思う。

委員：以前、会議で要望したブックスタートボランティアの有償化については、検討してもらっているのか。

図書館：他の事業のボランティアにも関連する課題であることなどから検討が進んでいない状況である。

委員：ブックスタートについては、ボランティアの方の中でも、ボランティア参加に対する優先度、意識の高さは人それぞれであり、事業の当日になって人員が不足して困ってしまうこともある。有償化することで、一定の責任意識を持ってもらい、参加数を確保することができるのではないかと考えている。

委員：ボランティア全体の人数が多ければ融通も利くのだが。

委員：保健センターで年間の日程が決まっているので、私は、子供の学校行事と重なっていないければ参加している。しかし、赤ちゃんが相手なので、風邪を引いている時は参加しない方がいいのかなど気を使うこともある。

委員：入館者数を多くするためには、月曜日を閉館しないといけないと思う。近隣では、どこの図書館も月曜日は閉館している。月曜日に利用したいと思っている人にとって、開館している図書館が少ない。休館日は、町の条例で定められているのか。

図書館：そのとおりである。

委員：国立国会図書館配信の歴音は、明治・大正・昭和の政治家の演説で歴史的価値もあり、勉強にもなって非常に良かった。もっと宣伝をした方がいい。

図書館：今後も、発展的に継続していきたいと考えており、PRにも力を入れていく。

4 その他

「白岡市生涯学習センターこもれびの森」の概要について館長より報告

事務局：参考資料のH30.10.26埼玉新聞の記事について、これは、埼玉県図書館協会が発表している県内自治体の人口1人当たり年間図書貸出冊数について三芳町が17年連続1位という記事で、宮代町は2位となっているもので、この話題に関しては、先日の町議会でも質問をいただいているので、参考資料として配付させていただいた。

なお、このデータのもとになっている年間貸出冊数については宮代町民以外の広域利用の貸出数も含まれているもので、全体の約6割が宮代町民で、残りの4割が広域相互利用の杉戸町や白岡市、春日部市、幸手市等の住民の利用である。

この統計データ、県内第2位という状況に対する町と指定管理者の見解としては、図書館の運営にあたっては、これまでも、そして今後についても、まずは宮代町民の皆さんに満足にご利用いただき、町民の利用を増やしていくことに重きを置いて、サービス向上やPR活動に努めていきたいと考えている。先ほど説明したとおり、10月に白岡市の図書館がオープンしたことで、広域利用のうち特に白岡市民の利用が大きく減少しており、今年度の全体の貸出数は、昨年度比で大きく減少することになると思われるが、この統計データや県内順位を意識しつつも、町民の皆さんの利用を第一に考えたサービスやPRに地道に取り組んでいくということで、委員の皆様にもご理解とご協力をいただければありがたいと考えている。

委員：サービス向上という観点で、以前から開館時間を9時30分とすることについて提案しているが、これに関してはどのように検討されているのか。杉戸町は9時開館であり、他の所でも9時が多いが、このあたりの展望としてはどうか。

事務局：開館時間を含めたサービスのあり方については、来年度、図書館ビジョンの改訂作業をしていく中で、利用者の意見等をいただきながら整理していく予定である。

委員：開館時間の見直しにあたっては、町民の生活時間の変化を考慮する必要がある。

- 委員：夕方の館内は閑散としている。今後、高齢者の方々にもっと利用してもらうためには、朝早く開けて、早目に閉めた方がいいと思う。
- 委員：図書館協議会の会議開催日について、平日、出席や傍聴できない人への配慮として、年3回のうち1回でも土日に開催するべきではないか。そうでないと、協議会の構成メンバーも固定化、高齢化し、勤労世代の人たちが入ることができない。
- 事務局：会議の開催日時について、ご意見の趣旨は理解しているつもりであるが、公募委員以外の団体選出等の委員の都合を尊重させていただく必要があり、図書館スタッフや教育委員会事務局の事情も考慮させていただくと、平日の16時から18時を基本として設定しつつ、その都度の日程調整の中で最適、多くの委員が参加可能な日程で開催していきたいと考えており、その調整の結果として土日に開催することがあるかもしれない。
- 一方で、来年度は、図書館ビジョンの改訂の議事を予定しており、その内容的に、特に多くの人に聞いてもらいたいという議論が行われる会議があれば、土日に開催することも考えられるのかなと思う。また、ビジョン改訂のプロセスでは、協議会の会議とは別に、多くの町民や利用者から意見をいただくワークショップや説明会のような機会を設けていく予定であり、それは当然、土日などの多くの方々に参加しやすい設定で開催することになると考えている。
- 委員：展示ホールのライトを替えてもらい、照明効果が良くなった。ただ、ホールでの話し声が閲覧コーナーに迷惑をかけているのでは、と感じている。
- 委員：展示ホール利用者の話し声については、以前の会議でも指摘したが、職員の方が積極的に注意をすることができていない。その対策として、施設を貸出す際に、利用にあたっての注意事項として説明を徹底するべきではないか。
- 図書館：話し声については、その都度注意するようにしている。
- 委員：イベントの主催者がイベント終了時に会場を出た際の注意事項のアナウンスを入れることを貸出のルールとすることも効果的だと思われる。
- 委員：第1回会議資料の平成30年度事業計画書の中で、「継続的に節電を行い、電気料金の抑制を図る。それに関連して、管理費予算を節減し、図書購入予算を補充する」とあるが、上期を終え、状況はどうか。
- 図書館：この夏は暑かったため、電気代を抑えることはできなかった。
- 委員：同じく事業計画書に記載されている危機管理体制の防火・防災対策の現況はどうか。
- 図書館：今年度の避難訓練はまだ実施していない。緊急時対応マニュアルと消防計画はすでに作成済である。
- 委員：超高齢化社会に向かって、図書館に求められている役割は、少しずつ変わってきていると思うが、指定管理者の組織の中で、高齢者への対応に関する全国各地の図書館の取組の情報共有は行われているのか。
- 図書館：情報の共有はしている。高齢者だけでなく、障がい者に対する対策もある。ただし、すべての図書館が同じような状況ではないので、宮代町の図書館で活かせるものとそうでないものがある。
- 委員：全国レベルでの情報の中で、宮代町でも活かせると思われるものについては、気を付けて欲しい。常に情報にはアンテナを張っておくべきだと思う。また、協議会委員にもそうした情報を提供してもらえるとありがたい。
- 委員：今年度は、同じ小学校の先生が2人協議会委員になっているが、小学校・中学校でそれぞれ1人ずつでないとならばバランスが悪い。
- 事務局：校長先生と司書教諭の先生にそれぞれ出してもらっており、その選び方としては、校長

- 先生の図書関連の集まりの会長と司書教諭部会の部長が図書館協議会の委員になることになっている。今年度は、たまたま両方が東小となっている。
- 委員：そうした選出ルールがあることは分かるが、同じ学校というのは、バランス的に問題があると思う。柔軟に対応してほしい。
- 事務局：今後は、学校サイドとも調整して、できるかぎり配慮したいと思う。
- 委員：以前の会議で提案させていただいた、さいたま市との相互利用の検討の進捗状況を説明していただきたい。
- 事務局：以前にも話をさせていただいたが、相互利用については、相思相愛、双方の自治体にとってのメリットがないと実現できないものであり、基本的には、隣接、生活圏が一体化している自治体間で実施しているのが一般的である。
- 委員：条例ではなく協定なのだから法的な縛りがない。実際、隣接していない所とやっている所もあり、そんなに難しい話ではないと思うのだが。
- 事務局：さいたま市との相互利用のニーズが多くの方々から寄せられているわけでもなく、仮にあったとしても、調整には相応のエネルギーを要するものと考えており、正直なところ、現在の業務体制の状況の中でこれにエネルギーを費やすことは難しい。
- 委員：次に、これも以前から提案、質問していることだが、他の図書館から借りた本を窓口ではないと返せない、ブックポストへの返却ができないルールの見直しについての検討状況はどうなっているのか。
- 図書館：現行のルールを見直し、ブックポストでも返却できるようにする。ただし、紙や袋等に包んでもらうことを条件とする。
- 委員：その袋等は借りた人が用意するのか。なぜそこまでする必要があるのか。
- 図書館：借りた本を傷つけないため。
- 委員：他の図書館ではそのようなことは求めている。実際に、他館に貸した宮代町の本はそういう扱いをされている。
- 図書館：宮代町ではそうしたい。
- 委員：新聞の閲覧について、埼玉新聞、日刊スポーツだけが一旦受付に行って借りることになっているが、なぜこの2紙だけそのような取扱いになっているのか。
- 図書館：以前、この2紙が集中的にいたずらをされたことがあり、その際の一時的な対策としたカウンターでの受け渡しがあるまま継続されている状況となっている。最近は、いたずらは発生していないので、ご指摘を受け見直しを検討中である。
- 委員：図書のリサイクルコーナーに、特定の宗教の本のみが置かれていたことがあった。まるで図書館が宣伝、応援しているような誤解を招いてしまう。
- 図書館：今後は、このような状況が発生しないように配慮、注意させていただく。

○事務局からの連絡事項

- ・図書館協議会委員の任期が3月で終了になる。広報1月号で公募委員の募集を掲載する。公募委員以外の委員の再任等の相談は、これから個別にさせていただく。
- ・次回会議は、3月に開催予定